

【服部】学校再編に係る地域説明会 概要

【日時】2018年（平成30年）4月22日（日） 15:00～17:25

【場所】服部小学校 体育館

【参加】参加者 71人（傍聴4人を含む。）

行政 17人（教育委員会：教育長，教育次長，管理部長，学校教育部長
市民局：まちづくり推進部長，北部支所長 他）

- 【内容】
- 1 開会
 - 2 あいさつ（教育長，服部学区自治会連合会長，服部小学校PTA会長）
 - 3 報告（服部学区自治会連合会長）（10分）
○市長と車座トークについて
 - 4 説明（学校再編推進室長）（30分）
○学校再編の考え方と取組について
○再編にあたって
○今後のスケジュール
 - 5 意見交換（95分）
 - 6 閉会（教育長あいさつ）

あいさつ

教育長

日頃から、服部小学校の教育推進にあたり、保護者や地域の皆様に御理解と多大なる御支援をいただいていることに心から感謝している。

これまで、保護者や地域の皆様の思いをしっかりと受け止めさせていただく中で、学校再編に取り組んできた。保護者の方を中心に意見交換を重ねてきたが、まだ十分説明できていないことや御意見を伺っていてもすぐにお返しできていないこともある。しかし、保護者の皆様が御理解を示してくださったことで、今日を迎えることができた。

たくさんの課題があるが、教育委員会が責任を持って、子どもたちのために新しい学校をつくっていく。今日は、いろんな御意見を出していただきながら、一緒になって新たな学校をつくっていくという会にしたい。

服部学区自治会連合会長

今日は教育長をはじめ、行政の方にお越しいただき、地域説明会を開催することになった。これから様々な要望や意見等が出されると思うが、丁寧な説明をお願いしたい。

自治会連合会は昨年4月から新体制となり、再編問題について、これまで何回か教育委員会と会合を持ったが、PTAが主体となって話を進めることになったため、私たちは見守るという立場をとっていた。その後、この3月末から4月初めにかけて、PTAから、「再編に向けて舵を切り、前向きに進めていくことにした」という報告を受けた。

いろんな面で良い学校をつくるということを第一に、皆さんの御協力をお願いしたい。

服部小学校PTA会長

この3月、教育委員会から保護者に、2020年に新しい学校を開校するという話があった。この間、小学校、就学前児童の保護者で話し合い、「子どもたちのために、これ以上再編

の時期を先延ばしするのは良くない」という意見も出され、合意ではないが、開校準備委員会を設置し、前に向いて進んでいくということになった。

地域の皆様には、これからたくさんのご意見を伺えるようになるかもしれない。今日は、しっかり意見を言っていただき、市からの回答を聞いたうえで、この先、地域としてどうしていくかということをしっかりと考えていただきたい。実のある話合いになればと思う。

意見交換（地域から出された主な意見と回答）

学校再編に関すること

■進め方について

○前回の地域説明会（2016年（平成28年）11月6日開催）から1年半もの期間が空いており、このことが不信につながっている。保護者や地域役員との意見交換に時間をかけてきたことは分かるが、行政主体の計画なら、この間に地域説明会も開催し、行政が責任を持って進めていくべきではなかったのか。

→（回答）

前回の地域説明会后、「まずは保護者の思いが大切である」また、「両学区の理解に温度差があるので、再編について駅家東学区の保護者にもっとしっかり説明してもらいたい」という御意見をいただき、その取組を重点的に行ってきた。この間、保護者との意見交換の経過等を、地域の皆さんへ教育委員会から何らかの方法でお伝えすべきであったが、できていなかった。

これまで丁寧な取組に努めてきたが、地域全体に行き届いていなかったことや、教育委員会が主体で進めている計画だからこそ、いろんな方の意見や思いをきちんと受け止め、対応すべきだったこと、役員の方に相談し、力を借りる中で、もう少し時期を待った方がいいと判断したことが適切でなかったこと等についてお詫びする。

今後は、情報をしっかりお伝えする。今日の御意見をしっかり受け止め、今後も、皆さんの気持ちをお聞きし、市の考えをお示しする場を持ちながら取り組んでいく。

○当初の再編計画から変更された地域があるのではないか。反対すれば、計画は変更されるのか。途中の計画変更は、非常に不信感をあおる。これまでずっと市に協力してきたが、なぜ、何の説明もないのか。

○地域ではいろんな情報が交錯している。具体的に説明してもらいたい。

→（回答）

内浦・内海学区の計画は、反対があったからではなく、教育委員会の責任において再検討し、変更したものである。（学校規模・学校配置の適正化計画では、基本的な考え方として、再編に当たって、施設一体型小中一貫教育校の可能性も併せて検討することとしている。）その他の学区については、当初の計画どおりで変更はない。



内浦・内海学区については、当初、小学校は複式学級の早期解消、中学校は1クラスあたり20人以上の生徒数の確保を目的に、内浦小学校、内海小学校と千年小学校を、内海中学校と千年中学校をそれぞれ再編することとしていた。

しかし、一昨年の義務教育学校※の制度化、千年中学校区内の能登原小学校、常石小学校を含む児童生徒数や学級数の将来推計、学校施設の老朽化の状況等を踏まえて再検討し、市が進めている小中一貫教育の効果をもっと高めることができる施設一体型の義務教育学校として、千年中学校区と内海中学校区の7つの小中学校を一つにし、千年中学校の場所に新たに整備することが最善であるという考えに至ったものである。当初の計画策定時には、義務教育学校という制度はなかった。決して再編の方向性を変えたわけではない。

再編の取組は、複数の地域で並行して進めているが、進捗状況も様々である。いろいろな噂を聞かれ、これまで教育委員会の説明がなく、対応が不誠実であると感じられ、疑心暗鬼になられていることに対しては、申し訳ない。教育委員会として再編の方針を出しているのだから、責任を持って進める。

一方、小規模校には、教育的配慮の必要な子どもたちが多く通っているところもあり、そうした子どもの居場所づくりは必要との考えから、市全体でどうしていくかを検討している。再編により新たに設置する学校へ少人数教室を設けることや、学校外の場所に設置している適応指導教室の増設などを考えている。適応指導教室は、在籍校への登校が難しい子どもたちが、学校復帰へ向け、集団生活への適応のための指導や学習支援を行っている。現在、市の中心部と東部にしかないため、市内どこからでも通えるようにしたいと思っているが、まだ検討段階であり、今話せる状況にない。

※義務教育学校 1年生から9年生までが在籍する学校。9年間の一貫した教育課程により、小中の系統性、連続性を持った教育を実施。また、教科の新設など、地域の実情に応じたカリキュラムの弾力的な運用が可能。

○昨年3月に地域住民を対象に実施された学校再編に係るアンケートの集計結果はどうなっているのか。再編について地域の関心は高い。しっかり情報提供してもらいたい。

→ (回答)

第1回目の地域説明会后、「学校再編に係る地域説明会〔服部学区〕論点整理」を配付するとともに、アンケートを実施し、結果を取りまとめた。地域役員の方には集計結果をお渡しし、その説明と市の回答をするため2回目の地域説明会を開催する予定でいたが、開催に至らず、地域の皆さんにはお配りできていない。期間も空いてしまい、内容も現在の状況とは合わないものもあるので、取扱いについて役員の方と相談する。今後は、地域全体に、再編に関する情報を適時お知らせしていく。

○駅家東学区の再編への理解を進めるためにも、誤解のない表現をしてもらいたい。駅家東学区の理解が進むまで再編しない方が良いのではないか。

※資料中「服部地域での学習活動も計画・実施」という記載について

→ (回答)

誤解を招くことのないよう、表現等についてしっかり考えていく。

駅家東学区の理解が進むよう取組をしながら、子どもたちのために、早期により良い教育環境を整えていきたいと考えている。再編の時期については、計画どおりのスケジュールで、責任を持って進めていく。

■必要性について

○小規模校が良くないという科学的根拠を示してもらいたい。このくらいの規模があれば、これだけ教育効果が上がるという根拠があれば、納得もできる。お金がないので小規模校は我慢してくれと言われているように感じる。

○これまで服部小学校は、少ない人数の中でやってきたし、成果は出ている。市は、「これからの社会」とよく言うが、ニュースで報道されていることに依存しすぎているのではないか。

→ (回答)

本市における適正規模（教育効果の高い人数）については、教職員アンケート、有識者で構成された学校教育環境検討委員会等での議論に基づき決定したが、諸外国や国、県が示したものでさえも、その根拠は明確にされていない。研究機関において、子どもの数と教育効果の研究もされているが、いろいろな要素が絡み合っているため、数字の根拠は出されていない。

同学年の複数の教員が、子どもたちのためにどういう授業展開をしていけば良いのか意見交換し、工夫し合うことで、教育効果が上がると言われている。しかし、2学年1クラスの小規模校では、その学年に関わる先生は1人か2人しかいないため、同学年の教員同士で話をすることもできない。

また、私たちが育った時代に求められた学力は、知識をたくさん蓄え、正確に早く答えを出す力だった。算数のように、答えの出し方を教え、答えが得られれば良かった。しかし、今、求められているのは、それはあくまでベースで、その上に、何が課題となっており、どうやったら解決できるのか、どう考え、どういう道筋をたどれば答えに至るのかを導き出す力である。誰とどういう話し合いをし、どういうアイデアをもらって、自分の考え

がどう変わっていったのかという過程がとても大切である。

他者と意見が分かれることや思いが違うことが多い中で、どうやって一致点を見出し、進めていくかを問われている。ただ計算ができたり、たくさん覚えたりしていることで仕事になっていたものは、人工知能（AI）に取って代わられている。たくさんのことを正確に覚えることは、タブレットを使うなど、個人で行うことができる。そういったものも上手に使いつつ、人とぶつかり合いながら、一致点を見出せない問題について、子どもたちが、「このままではいけない、何とかしなければいけない」という気持ちを持って取り組めるようにする。教育委員会として、責任を持って、そのような環境を何としてでもつくる。それが私たちの役割だと思っている。

学校の規模が小さくても、良いところはたくさんあり、服部小学校の学びの素晴らしさもよくわかっている。だからこそ、学区や集団が変わっても、その学びをしっかりと引き継いでいく。再編して、子どもたちが切磋琢磨しながら学ぶ環境をつくる。このまま学校を残してほしいという気持ちも十分理解できるが、さらなる人口減少により、教員の確保が難しくなる中、現在のままの学校配置で、熱意や力量のある先生を育て、責任を持った教員配置をしていくことは難しい。少人数だから我慢してもらうのではなく、市全体で教育環境をより良いものにしていく。新しい学校をつくり、子どもたちがしっかりと力をつけていくことができるよう、最大限努力していく。

これまでの過程で、教育委員会を信頼してもらえないこともあった。至らないところはこれから取り組んでいく。いろんな思いがぶつかり合いながらも、一つになって、子どもたちにとって良い学校をつくっていくことに、ぜひとも力を貸していただきたい。

○昨今の耐震補強等建物設備の改修等も、財政を左右する要因の一つだと思うが、一つの学校を維持するには、経費も莫大かかる。しかし、お金のために、子どもたちへのしわ寄せがあってはならない。しっかり配慮していただきたい。

→ (回答)

人口減少、少子高齢化の進行等、私たちが未だかつて経験したことのない社会が到来している。これは、福山市だけでなく、全国的な問題でもある。労働人口が減少し、税収も落ち込む中、どのように住民サービスを維持していくのかという課題もある。

本市では、1980年(昭和55年)に児童生徒数のピークを迎え、現在ではその60%まで減少しているが、学校数は当時と変わっていない。阪神淡路大震災等天災の発生から、より学校の安全性が求められるようになった。税収が減る一方で、建物も維持していかなければならないということも御理解いただきたい。

また、子どもたちの学ぶ環境も大きく変わり、国もこれからの社会を見据えた教育内容に舵を切っていく方針を出した。全国の学校がそれに向かって進んでいる。子どもたちには、そうしたカリキュラムに対応できる教育環境を整え、多様な経験をさせたい。

社会情勢が大きな変革を迎えていることや市全体のことも考えながら、教育行政を進めていく。

○ある程度の集団の中で育たないと、子どもたちは萎縮してしまう。子どもの頃、少人数で教育を受けた経験からも、小さいときには、大人数の中で切磋琢磨しながら成長した方が良い。今後も、子どもの人数は増えないと思う。これまでの歴史や先人の頑張りがあったこともよくわかるが、子どもたちのことを考えると、子どもたちのために良い環境をつくるという教育委員会の言葉を信じ、前向きに協力していきたい。

→ (回答)

子どもたちが力をつけていくためには、多くの友だちの中で人間関係をつくっていきながら、学んでいく環境が必要ということを中心に留め、しっかり取り組んでいく。

■学校の存続について

○最近、若い世帯が服部に移住している。今は子どもの数は少ないが、10年、20年先を見据えた計画を立ててもらいたい。

→ (回答)

車座トークで市長も申したとおり、教育環境の整備と地域活性化の問題は分けて議論していきたい。二つの問題が絡み合うと、より複雑となって物事を整理しづらくなるため、まずは子どもたちの教育のことについて十分議論を尽くし、地域の活性化についてもこれから議論していく。

今回の再編計画は、10年、20年後を見据えた児童推計を基に策定したものである。100年以上続いた歴史ある服部小学校を、残したいという気持ちも受け止めさせていた。しかし、少子化の進行や、教育内容の変化、AIの導入等による雇用環境の変化等により、これからの教育のあり方について、国（文部科学省）が舵を切ったところ。一定の集団の中で、子どもたちがいろんな創造力や感性を生かし、 $1+1=2$ ではなく、3や4にもなることを導き出せる、そのような人材を育成していく。

同時に、服部の自然環境を守りながら、この地域に住み続けたいと思ってもらえるまちづくりをしていく。そうした取組とともに、服部の子どもたちが、安全に再編後の新しい学校へ通学できるような仕組みをしっかりとつくっていく。

再編後の学校に関すること

○事前交流は、同じ学年同士で実施しないのか。今年度5月に実施予定の合同遠足（綱網）では、服部小学校は3・4年生、駅家東小学校は4年生となっている。

→ (回答)

事前交流については、服部小学校長と駅家東小学校長とで話をし、児童数のバランスも考慮しながら決定している。

○放課後チャレンジ教室について、服部の希望者は、自宅までタクシー等で送ってもらえるのか。

→ (回答)

自宅ではなく、スクールバスの乗降所までを検討している。

○子どもたちを、頭の賢さだけで測らないでほしい。昨今、無差別に人を殺す事件等、道徳が欠けていると言わざるを得ない事件が増えている。それは教育のやり方が間違っているということ。英語も大切だが、道徳も大切。子どもたちの心をしっかり養ってほしい。

→ (回答)

いつの時代でも、子どもたちは大切にされたり、仲間を大切に思ったりする心をしっかり持って育ててほしい。地域の皆さんは、いつも子どもたちを見守り、声をかけてくださっており、子どもたちと地域の方との間には信頼関係が築かれている。そういった社会では、子どもが人を傷つけることはないと信じている。

今年度から道徳も教科化された。子どもたちの心を豊かに育ていけるよう、しっかり取り組んでいく。地域や保護者の皆さんと一緒に、人を大切に思う気持ちを育てていきたい。

開校準備委員会に関すること

○両学区で意見が分かれてしまい、どうしても決まらない場合は、教育委員会としてどう対応するのか。

→ (回答)

開校準備委員会で意見が分かれてしまっても、子どもたちにとって良い環境をつくるという共通の思いの中で、委員会でどう折り合うか、どうやって決めていくかを話し合ってもらいたい。それでも調整が必要な場合は、委員である管理部長から提案をしたり、事務局（学校再編推進室）が調整をしたりするなど、決めていくことができるよう取り組む。

どうしても決まらないという状態であれば、教育委員会として判断する。開校準備委員会の過程の中で、委員が集まらなくても意見を出していただき取りまとめたり、部会を設けて個別に話し合うなど工夫する中で、限られた期間の中で協議し、まとめていけるようにしていく。

まちづくりに関すること

○この4月、市に新しい部署を設置し、地域活性化について前向きに取り組んでいくとのことだが、服部の地域活性化についてはどのように考えているのか。

→ (回答)

まちづくりについては、これまで、まちづくり推進部、北部支所を中心に、地域の皆さんと一体となって取り組んでいる。これまでの協働のまちづくりに加え、各地域で様々な課題が発生している中、より地域が活性化していくよう、市長指示のもと、4月から、企画政策部に、地域活性化担当部長が新設された。今後は、この3部署が一体となって、学区の皆さんとともに、しっかり知恵を出し合いながら取り組んでいく。

○再編後にできる新しい学区名はどうなるのか。

→ (回答)

再編後の学校の通学区域を示す学区名は、新しい学校の名称により定めることになるが、

地域活動を行うコミュニティ組織としての名称については、行政が決めるのではなく、地域の皆さんと話を決めていきたいと思う。

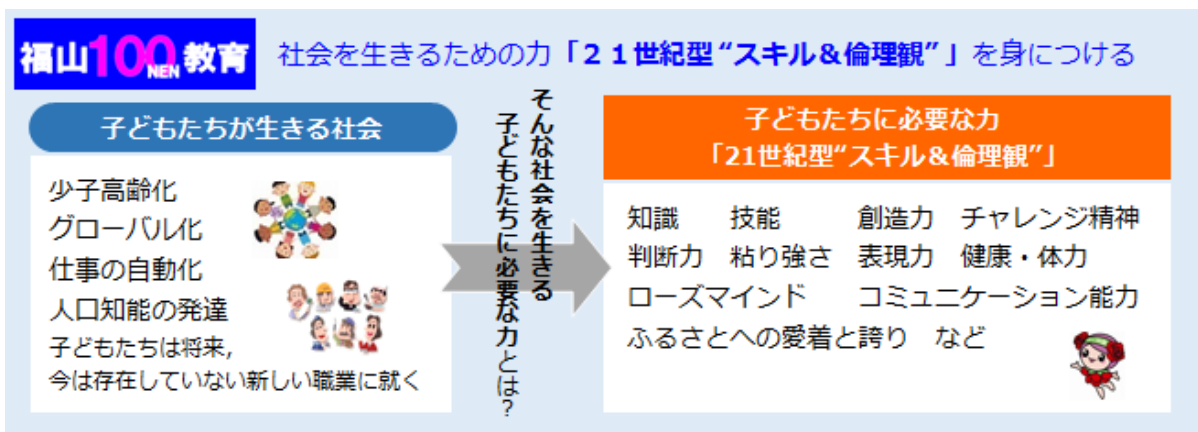
○過去、市町村合併の際、同じ町内でありながら、学区が分かれてしまったことがある。
このたびの再編では地域が分断されることはないが、今後も配慮してもらいたい。

→ (回答)

過去、子どもの数が増える中で、学校を分離・新設したことに伴い、地域が分断されたこともあり、町内会の方には大変なご苦勞があったと聞いている。今回の再編では、地域が分かれることはないが、今後の再編にあたっては、地域のまちづくり活動に影響が出ないよう考えていく。

閉会（教育長あいさつ）

私たちは、学力を教科の点数化のように狭く捉えてはいない。本市では、『福山100 N E N教育』に取り組んでおり、一昨年度の市制施行100周年から次の100年に向けて、どんなに世の中が変わっても、たくましく生きていく力を子どもたちにつけようとしている。このつける力を、21世紀型“スキル&倫理観”と言っている。



国が言う“21世紀型スキル”は、知識・技能、課題発見・解決力、粘り強さ等だが、本市では、敢えて“倫理観”も含めている。ローズマインド（思いやり、やさしさ、助け合いの心）をしっかりと育てていくとともに、知識・技能等をつけていく。どちらか一方ではなく、両方が必要。これからの社会は、一致しない、答えのない課題ばかりであるからこそ、なおさら倫理観が必要と考えている。そのために、一定の集団の中で切磋琢磨していくことが、広い意味での学力をつけていくことにつながり、次の100年に向かって、たくましく生きていく子どもになる。今、小学生の子どもたちは、22世紀に向かって生きている。また、その子どもたちの命は、確実に22世紀を生きる子どもたちの命につながる。私たちが受けてきた狭い教育観ではなく、答えだけでなく、問いさえも探し見つけていかなければならない時代を生きる子どもたちだからこそ、広い意味での学力をしっかりとつけていく。

本日いただいた御意見をしっかりと受け止め、責任を持って取り組んでいく。